

CONTENTS

第70回文化講演会	2
友の会のページ 研修バス旅行報告	3
企画展 津山藩医久原家の幕末・明治	4
資料館展示品から	5
洋学資料館の夏休み教室開催 !!	6 7
企画展 明治天皇の侍医頭 岡玄卿	8
特別寄稿 岡玄卿関係史料の寄託に寄せて	9
NEWS FILE	10 11
INFORMATION (催し物のご案内)	12

洋学 資料館

No. 16

September, 2015



ここは、仁木永祐の生まれた豊田家の屋敷跡です。永祐は、
1830(天保元)年に東北条郡下津川村の中庄屋であった豊
田家に生まれました。江戸に出て箕作阮甫や宇田川興齋に
蘭学を学んだのち、帰郷して粉保の医家・仁木家の養子と
なります。医業のかたわら、私塾耕山塾を開いて多くの門
人を育成。明治期には自由民権運動にも奔走し、「美作板垣」
とまで称されました。
平成18年3月、津山市の「平成の大合併」にあわせて、豊
田家ご後裔の豊田正敏さん(東京電力元副社長)から敷地
が下津川町内会へ寄贈されました。この石碑は、その際に
建立されたものです。(津山市加茂町)



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING



第35回友の会研修バス旅行

5月24日（日）、35回目となる友の会研修バス旅行を実施しました。

城東観光駐車場をバスで出発し、最初に向かつたのは蘭学者・川本幸民の出身地の兵庫県三田市です。幸民は「化学」の語を日本で最初に書名に使つたといわれており、津山の蘭学者たちとも交流がありました。

2時間ほどで心月院に到着すると、ボランティアガイドの荒木節夫さん、西野さち子さん、森田操子さんが出迎えてくれました。心月院は三田藩主九鬼家の菩提寺で、代々藩儒を務めた白洲家の墓所もあります。ご住職の児島正龍さんから三田の歴史についてご説明をいただき、九鬼家や白洲家の墓所をお参りしました。戦後、「吉田茂首相の懐刀」とも称された白洲次郎と正子夫妻のお墓もここにあり、今でも花を手

向ける人が絶えないのでそうです。



そこから坂道を下って、白洲次郎の祖父・退蔵の出生地や川本幸民が開いた私塾・英蘭塾の跡、幸民の顕彰碑、最後に英蘭塾の門人・九鬼隆範が設計した旧九鬼家住宅資料館などを見学し、ガイドの皆さんに見送られて三田を後にしました。

そこから神戸市へ移動し、昼食の後はコーヒー博物館を訪ねました。ここはUCCが設立した、日本唯一のコーヒー専門博物館です。伝来の歴史や焙煎の方法など、コーヒーの奥深い世界に触れて、榕菴が絵を描き残したコーヒーカン（コーヒーアー）の原物を見るなどできました。

天候にも恵まれ、しっかりと歩いて見学し、充実した一日になりました。各見学地でお世話になつた皆さんにお礼申し上げます。



4月18日（土）、熊本県立大学准教授の平岡隆一先生を講師にお迎えし、第70回文化講演会を開催しました。

平岡先生のご専門は科学史、思想史、東西交流史です。今回の講演では江戸時代の日蘭貿易がもたらした、日本とヨーロッパの文化交流についてお話しいただきました。

日本と西洋の交流は、1542年にポルトガル人が種子島に上陸してから始まりました。その後、色々な国が日本を訪れましたが、最終的にオランダだけが江戸時代を通して、交易を保ち続けることになります。オランダ語によって、西洋の科学知識を移入し、「洋学」が生まれたことはよく知られていますが、それ以外の文物にも西洋の影響を受けたものがあります。その代表が浮世絵で、テーマや構図のほか、絵具も西洋から輸入されたものが使われたのだそうです。

また、反対にオランダ船がヨーロッパへ伝えた日本の文物も、西洋文化に影響を与えました。その一つが服飾で、ヤポンス・ロックと呼ばれる日本風の衣装が流行し、フェルメールの絵画にも描かれたり、工芸品では漆器が「JAPAN」と呼ばれたことなどを、具体的な資料の写真とともに分かりやすくお話しくださいました。

そして「鎖国」というと閉鎖的なイメージがありますが、実際には開放的で積極的、かつ双方向の異文化交流があり、こうした異文化との共生の歴史を、未来のまちづくりに生かしていくのでは、と提起してお話を結ばれました。

当日は、良く晴れた春の一日で、多くの方に参加していただきました。聴講した皆さん、先生のお話しに時には相づちをうちながら、興味深そうに聞き入っていました。

「近世日本とオランダ－日欧文化の交流と融合－」

第70回 文化講演会

講師 熊本県立大学文学部准教授 平岡隆一先生

これは、宇田川榕菴がオランダ軍将兵の階級ごとの服装や装備の図を模写したもの。平成8年に古書店から購入して収集しました。

現在の装丁は後の時代に作り直されたのですが、見返しには元の装丁から切り取られた「菩薩樓秘藏／闇外不出」の書き込みと、「W」の押印が貼り付けられています。「菩薩樓」とは榕菴の書斎の名前で、「W」は宇田川榕菴の落款です。オランダ語で書

かれた目録も榕菴の筆跡で、間違いない榕菴が写して秘蔵した資料であることが分かります。

図の出典は、1823年にオランダで刊行されたTEUPKEN（テウプケン）著『オランダ軍隊関係者のための軍服・武器・設備等の解説書』です。オランダ船によつて日本へもたらされ、榕菴も目にしたのでしよう。

この本に関心を持ったのは榕菴だけではなかつたようで、同様の模写が各地に数点残されています。津山藩主・松平斉民の旧蔵と

される「芸海余波」（早稲田大学図書館所蔵）にも、数枚の図が貼り込まれています。1858（安政5）年には山脇正民によって『和蘭官軍之服色及軍装略図』と題し、榕菴の図譜では、原書の本文は省かれており、扉絵と目録、そして44枚の図が収められています。いずれも細部の装飾にいたるまで精密に描かれており、榕菴の西洋文化への強い関心とともに、その描写力の高さも伝えていています。

資料館展示品から

榕菴が模写した軍人の図

オランダおうこくぐんそう ずふ 『和蘭王国軍装図譜』

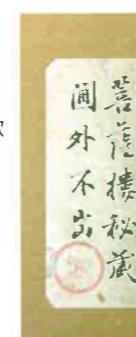


▲折本になっており、原図51図のうち、図19、21、22、31、35、46、47を除く44枚が貼られています。

▶見返しに貼られた書き込みと落款

参考文献：片桐一男『『和蘭官軍之服色及軍装略図』の原書とその附図の模写図をめぐって』（『古美術』第66号、1983年）

前号の「資料館展示品から」で井手萌子さんのお名前を誤って表記しておりました。訂正してお詫び申し上げます。



宇田川榕菴関係資料 市指定重要文化財に



▲宇田川榕菴関係資料（植物学啓原色校正原色校正図、和蘭カルタ、大西楽律稿）

洋学資料館が収蔵する宇田川榕菴の関係資料18件82点が、5月に津山市指定重要文化財（歴史資料）になりました。今回指定されたのは、上記の和蘭王国軍装図譜をはじめ、和蘭カルタや植物学啓原色校正図、宇田川榕菴蔵張込帖など、寄贈や購入によって収集した榕菴の自筆・旧蔵資料です。

昨年度には早稲田大学図書館所蔵の宇田川榕菴化学関係資料が日本化学会の認定する化学会遺産第29号に認定されました。近年ますます榕菴を顕彰する動きが高まっていることを感じます。



今年は、代々津山藩医を務めた久原家の9代洪哉の生誕190年、および洪哉の長子躬弦の生誕160年に当たります。これを記念して、企画展「津山藩医久原家の幕末・明治」を開催しました。

久原家に残された「先祖書」によると、久原家の始祖は森家の家臣熊野角右衛門であると伝えられています。角右衛門はその後、久原宗清良政と名を改めました。

医家としての初代は、宗清の跡を継いだ久原甫雲良賢です。良賢は

1677（延宝5）年に幕府の医官であった西玄甫から「阿蘭陀流外科免許状」を受けられ、1708（宝永5）年に津山藩医として召抱えられました。森家改易後も松平家によって登用され、洪哉のときに明治維新を迎えるまで、久原家は160年以上にわたって代々津山藩医を務めることになります。

最後の藩医となつた洪哉は、幕末の動乱の中で藩主に従つて京都や江戸に繰り返し出張し、長州戦争にも従軍。一方、種痘普及に尽力するなど地域医療にも貢献します。明治維新後の1870（明治3）年には藩主夫人の乳がん摘出手術を成功させました。

展示では、洪哉が京都や江戸へ出張した際の自筆の記録や、乳がん手術の際に意見を求めたイギリス人医師ウイリスの英文書簡などを展示。幕末・明治初期という大きな時代の変遷の中、洪哉が藩医としてどのような活動をしたかをご紹介しました。

また、化学者となり京都帝国大学総長を務めた長男躬弦、そして医業を継ぎ地域の医療に尽くした次男茂良について、「勲一等瑞宝章」や「久原医院新築落成祝辞」といった資料も展示しました。特に躬弦の修学過程を示す書簡や卒業証書などからは、日本の高等教育の変遷をうかがうことができる展示となりました。

期間中は多くの方に見学していただき、久原家のご後裔やゆかりの方々もご来館くださいました。皆さん、久原家代々の業績に感嘆の声を上げながら、熱心に展示に見入つておられました。



▲津山高校の実験の様子と指導される貴志先生

8月9日（日）には、江戸時代の化学書からの再現実験教室を開催しました。今年の教室も『舍密開宗』の中から、津山高専の廣木一亮先生、津山高校の貴志貫先生と各校生徒の皆さん指導により「ギンギラギンの銀の世界！」と「植物の成分」エキス、糖、油とその性質」の2つの実験をしました。

「ギンギラギンの銀の世界！」では、私たちの生活で身近な存在である「銀」に関する実験を行いました。最初に「銀樹」の作成。硝酸銀の中に銅片を入れ、成長を待ちます。その間に、酸化銀の分解と酸素の収集を、「舍密開宗」にも図解されている「水中置換」で行いました。

続いて硝酸銀とアンモニアを使って、鏡を作成。試験管の内側に銀の膜を作り、きれいな鏡ができることが確認されました。最後に「銀樹」が成長している様子を観察。予想以上にきれいな「枝」ができました。

「植物の成分」エキス、糖、油とその性質」では最初にレモン汁に重曹を加えると、酸味がなくなることを確認。次に、オリーブオイルにアルコールやステアリン酸等を加えてハンドクリームを作りました。最後に砂糖に植物の灰をまぶして燃焼させる実験をした後、砂糖と塩素酸カリウムの混合物に濃硫酸をかけ、激しく燃焼させる実験をして実験は終了しました。

今回は例年に比べて開催時期が少し遅かったこともあって不安がありました。最終的には約30人の市内外の小学生が参加してくれました。帰り際、参加した子供や保護者の方から、「面白かった、また、参加したいと思う」という声も聞こえてきて、一日の疲れも飛んでいく心地がしました。



成長した銀樹



▲親子でスタッフホストの作品づくり

▼ヒンデローペン絵付け体験教室 眼鏡ケースには伝統的なヒンデローペンの図案、空きボトルには永江先生がヒンデローペンの技をもとにオリジナルで考案された桜の図案を絵付けしました。



7月25日（土）、親子でスタッフホストの作品づくり、
翌26日（日）には、一般を対象にしたヒンデローペン絵付け体験教室を開催しました。

ヒンデローペンは資料館展示室の装飾にも用いているオランダの伝統工芸ですが、スタッフホストもオランダで400年以上続く装飾技法です。kinuikoヒンダローは、小物入れのふたに釘や虫ピンでスタンプを押すようにして装飾を施しました。皆、絵の具を混ぜて好きな色を作り、個性豊かな作品を仕上げていました。

一般の方は、眼鏡ケースやワインの空きボトルに絵付けしました。筆の動きひとつで絵の雰囲気が変わるため、皆「難しい」と言いながらも、お互いに作品を見せ合いながら楽しそうに取り組んでいました。



特別寄稿

岡玄卿関係史料の寄託に寄せて

津山洋学資料館元館長 下山純正

思い続ければ、不思議といつかは願いが叶うものです。

長年、津山に縁のある、明治天皇の侍医頭・岡玄卿という人物を追跡してきたので、このたび関係史料が津山洋学資料館へ寄託されたことは、本当に感無量です。

平成14年、箕作元八（箕作阮甫の孫）のご後裔にあたる箕作元秋さんと談話中に「（旧制）湘南中学校時代の同窓に岡四郎君という人がいて、津山とも何か関係があるような話をしていたよ」と伺い、もしかしたら岡玄卿のご後裔ではないかと直感したのが事の始まりでした。

さっそく上京して3人で会食を共にさせていただきましたが、のちに、岡四郎さんから、お持ちの玄卿関係史料20数点の複写を入手し、研究成果を新聞に寄稿させていただきました。その時、史料の寄託話もあつたのですが、残念ながら環境が整わず、そのままとなってしまいました。

その後も電話や文通などで交流を続けていましたが、昨年春ごろ、岡四郎さんから「本家筋の故岡保正氏（医師・旧男爵家）夫人岡興世さん（山口県在住）と、保正氏の御令妹森芳子さん（東京都在住）から、家伝史料の扱いについて相談を受けています」との連絡をいただき、夏には岡家を訪問して協議し、今春から岡家の一任を受



け、それらを自宅に収集して当該史料の調査と目録作成を進めてきました。

このたび、岡家ご後裔の同意を得たことから、古写真・勲記・勲章・辞令書・履歴書・著書・医療器具など110件143点を、郷里津山の洋学資料館へ寄託していました。岡四郎さんとの出会いから、実に13年という歳月が経過してしまいました。それだけに、感慨深い史料の收集となりました。

この夏開催された企画展「明治天皇の侍医頭岡玄卿」には、岡家の方々も遠方からご来館され、大変喜んでいただきました。仲介役をいただいた箕作元秋さんは、昨年暮れに逝去されてしまい、報告が間に合いませんでした。きっと天国から「良かつたですね」と、微笑んでおられるような気がいたします。



明治天皇の崩御に立ち会った侍医頭・岡玄卿は、その業績の大きさにも関わらず、各種の人物事典でも出身や経歴などに様々な説があり、謎の多い人物です。

玄卿は、墓誌によると1852（嘉永5）年、津山藩の大坂蔵屋敷で生まれたとされます。1876（明治9）年に東京医学校（翌年東京大学医学部に改称）を首席で卒業。同校の医員から助教、助教授となりました。1883（明治16）年に宮内省から侍医を拝命し、ドイツ留学を経て、侍医局長、そして1908（明治41）年に侍医頭となつたのでした。

当館では、開館以来玄卿の足跡を調べてまいりましたが、昨年にいたり、玄卿のご後裔である岡興世さん、岡四郎さんから関係資料をご寄託いただきました。その記念として本展「明治天皇の侍医頭岡玄卿」を開催する運びとなりました。

本展では、医療器具や写真、挙領品など約50点を厳選して展示し、玄卿の生涯と業績を紹介しました。玄卿については、いまだ研究途上であるとは感じていますが、今回の展示を通じて今後の玄卿研究に一石を投じる役割を果たせればと思っています。

観覧した方々からは、「津山にゆかりのある人が、これ程の業績を残していることを初めて知った」「もっと多くの人に知られるべき人だと思う」などの声が寄せられています。

最後になりましたが、開催あたりましては、岡興世さん、岡四郎さん、森芳子さんに多大なるお力添えを賜わりました。また、資料受託および展示企画全般にわたって、下山純正元館長に指導・監修をいただきました。ここに記して厚くお礼申し上げます。

明治天皇の侍医頭 岡玄卿

会期：6月27日（土）～8月23日（日）

夏季企画展 資料受託記念





2月25日（水）、資料館の近くにある城東保育園の園児たちが見学に来てくれました。

園児たちの来館は、昨年に続いて2回目です。展示室の天井に描かれた動物たちや星野木骨（複製）、榕菴の和蘭カルタなどに興味津々で、職員の説明を聞きながら、目を丸くして資料に見入っていました。

最年少の団体見学でしたので、津山の洋学をどのように伝えようかと悩んでいましたが、とても喜んでもらえたようで、ホッとしました。

普段の学校生活とは異なる活動に、少し緊張している様子でしたが、終了後には「資料館での体験を今後に活かしていきたい」と感想を寄せてもらいました。



6月3日（水）から5日（金）まで、チャレンジワークつやま子デビュー14で、津山市立東中学校の志比田克也君、島田健生君、早瀬健祐君が職場体験を行いました。

洋学者たちの銅像清掃や林田の箕作家墓所の草取り、資料の修繕や来館者に対する展示の解説など、様々な仕事を体験してもらいました。

普段の学校生活とは異なる活動に、少し緊張している様子でしたが、終了後には「資料館での体験を今後に活かしていきたい」と感想を寄せてもらいました。



紀先生は火にかけても割れない備前焼の技術を持つておられ、平

成24年と25年には蒸留器具の蘭引も寄贈いたしています。今回寄贈していただいた「珈琲燭」も、その技法を用いて、榕菴の図をもとに作ってくださったものです。

榕菴の自筆資料「觀自在菩薩樓隨筆」（公益財団法人武田科学振興財団杏雨書屋所蔵）に、このコーヒーカンの図が描かれているのです。

紀先生は火にかけても割れない備前焼の技術を持つておられ、平成24年と25年には蒸留器具の蘭引も寄贈いたしています。今回寄贈していただいた「珈琲燭」も、その技法を用いて、榕菴の図をもとに作ってくださったものです。

贈呈式では紀先生から「展示などに活用してください」と資料が贈られ、田村芳倫教育長が感謝状をお渡ししました。

コーヒーを沸かす実演も行つて、「美味しい！」との感嘆の声が上がりました。



城東保育園の園児来館

チャレンジワーク 資料館で実施

「コーヒーカン」が寄贈されました



NEWS FILE 平成26年度 冬季講演会「実感！体感！舎密開宗」開催

専門学校准教授の廣木一亮先生を講師にお迎えし「実感！体感！舎密開宗－現代化学者が語る宇田川榕菴のすごいところ！」と題してご講演いただきました。

廣木先生には、毎年夏休みに小学生を対象にした再現実験教室の講師をしてもらっています。かねてより一般の方からも、ぜひ参加してみたいとのお声があり、今回も講演会につながりました。

『舎密開宗』は、宇田川榕菴が刊行した「日本で最初の化学書」として知られていますが、具体的にどんな所がすごいのかを、歴史の視点からお話ししました。

そして、ヨーロッパで最新の化学知識を、わずか10年の時間差で、いわゆる「鎖国」下にあつた日本で紹介している、『舎密開宗』はまさに奇跡の書であると結ばれました。お話を合間で再現実験も行われ、参加された方は終始食い入るように見入っていました。帰り際には「とても面白かった」「ぜひ恒例にしてほしい」などといった感想が寄せられていました。

津山藩医の宇田川玄随は役者の市川団蔵や坂東三津五郎に目鼻立ちが似ていたと記録があり、彼らの浮世絵と玄隨の胸像を並べて比べてもうコナーも設置しました。来場された方々は、「似てる？」に、資料館の所蔵する浮世絵29点を出展しました。

つやまギャラリーに 資料出展



2月22日（日）、津山工業高等

専門学校准教授の廣木一亮先生を講師にお迎えし「実感！体感！舎密開宗－現代化学者が語る宇田川榕菴のすごいところ！」と題してご講演いただきました。

廣木先生には、毎年夏休みに小学生を対象にした再現実験教室の講師をしてもらっています。かねてより一般の方からも、ぜひ参

加してみたいとのお声があり、今回も講演会につながりました。

『舎密開宗』は、宇田川榕菴が刊行した「日本で最初の化学書」として知られていますが、具体的にどんな所がすごいのかを、歴史の視点からお話ししました。

そして、ヨーロッパで最新の化学知識を、わずか10年の時間差で、いわゆる「鎖国」下にあつた日本で紹介している、『舎密開宗』はまさに奇跡の書であると結ばれました。

お話を合間で再現実験も行われ、参加された方は終始食い入るように見入っていました。帰り際には「とても面白かった」「ぜひ恒例にしてほしい」などといった感想が寄せられていました。

津山藩医の宇田川玄随は役者の市川団蔵や坂東三津五郎に目鼻立ちが似ていたと記録があり、彼らの浮世絵と玄隨の胸像を並べて比べてもうコナーも設置しました。来場された方々は、「似てる？」に、資料館の所蔵する浮世絵29点を出展しました。

つやまギャラリーに 資料出展



2月22日（日）、津山工業高等

専門学校准教授の廣木一亮先生を講師にお迎えし「実感！体感！舎密開宗－現代化学者が語る宇田川榕菴のすごいところ！」と題してご講演いただきました。

廣木先生には、毎年夏休みに小学生を対象にした再現実験教室の講師をしてもらっています。かねてより一般の方からも、ぜひ参

加してみたいとのお声があり、今回も講演会につながりました。

『舎密開宗』は、宇田川榕菴が刊行した「日本で最初の化学書」として知られていますが、具体的にどんな所がすごいのかを、歴史の視点からお話ししました。

そして、ヨーロッパで最新の化学知識を、わずか10年の時間差で、いわゆる「鎖国」下にあつた日本で紹介している、『舎密開宗』はまさに奇跡の書であると結ばれました。

お話を合間で再現実験も行われ、参加された方は終始食い入るように見入っていました。帰り際には「とても面白かった」「ぜひ恒例にしてほしい」などといった感想が寄せられていました。

津山藩医の宇田川玄随は役者の市川団蔵や坂東三津五郎に目鼻立ちが似ていたと記録があり、彼らの浮世絵と玄隨の胸像を並べて比べてもうコナーも設置しました。来場された方々は、「似てる？」に、資料館の所蔵する浮世絵29点を出展しました。

つやまギャラリーに 資料出展



2月22日（日）、津山工業高等

専門学校准教授の廣木一亮先生を講師にお迎えし「実感！体感！舎密開宗－現代化学者が語る宇田川榕菴のすごいところ！」と題してご講演いただきました。

廣木先生には、毎年夏休みに小学生を対象にした再現実験教室の講師をしてもらっています。かねてより一般の方からも、ぜひ参

加してみたいとのお声があり、今回も講演会につながりました。

『舎密開宗』は、宇田川榕菴が刊行した「日本で最初の化学書」として知られていますが、具体的にどんな所がすごいのかを、歴史の視点からお話ししました。

そして、ヨーロッパで最新の化学知識を、わずか10年の時間差で、いわゆる「鎖国」下にあつた日本で紹介している、『舎密開宗』はまさに奇跡の書であると結ばれました。

お話を合間で再現実験も行われ、参加された方は終始食い入るように見入っていました。帰り際には「とても面白かった」「ぜひ恒例にしてほしい」などといった感想が寄せられていました。

津山藩医の宇田川玄随は役者の市川団蔵や坂東三津五郎に目鼻立ちが似ていたと記録があり、彼らの浮世絵と玄隨の胸像を並べて比べてもうコナーも設置しました。来場された方々は、「似てる？」に、資料館の所蔵する浮世絵29点を出展しました。

つやまギャラリーに 資料出展



2月22日（日）、津山工業高等

専門学校准教授の廣木一亮先生を講師にお迎えし「実感！体感！舎密開宗－現代化学者が語る宇田川榕菴のすごいところ！」と題してご講演いただきました。

廣木先生には、毎年夏休みに小学生を対象にした再現実験教室の講師をしてもらっています。かねてより一般の方からも、ぜひ参

加してみたいとのお声があり、今回も講演会につながりました。

『舎密開宗』は、宇田川榕菴が刊行した「日本で最初の化学書」として知られていますが、具体的にどんな所がすごいのかを、歴史の視点からお話ししました。

そして、ヨーロッパで最新の化学知識を、わずか10年の時間差で、いわゆる「鎖国」下にあつた日本で紹介している、『舎密開宗』はまさに奇跡の書であると結ばれました。

お話を合間で再現実験も行われ、参加された方は終始食い入るように見入っていました。帰り際には「とても面白かった」「ぜひ恒例にしてほしい」などといった感想が寄せられていました。

津山藩医の宇田川玄随は役者の市川団蔵や坂東三津五郎に目鼻立ちが似ていたと記録があり、彼らの浮世絵と玄隨の胸像を並べて比べてもうコナーも設置しました。来場された方々は、「似てる？」に、資料館の所蔵する浮世絵29点を出展しました。

つやまギャラリーに 資料出展



2月22日（日）、津山工業高等

専門学校准教授の廣木一亮先生を講師にお迎えし「実感！体感！舎密開宗－現代化学者が語る宇田川榕菴のすごいところ！」と題してご講演いただきました。

廣木先生には、毎年夏休みに小学生を対象にした再現実験教室の講師をしてもらっています。かねてより一般の方からも、ぜひ参

加してみたいとのお声があり、今回も講演会につながりました。

『舎密開宗』は、宇田川榕菴が刊行した「日本で最初の化学書」として知られていますが、具体的にどんな所がすごいのかを、歴史の視点からお話ししました。

そして、ヨーロッパで最新の化学知識を、わずか10年の時間差で、いわゆる「鎖国」下にあつた日本で紹介している、『舎密開宗』はまさに奇跡の書であると結ばれました。

お話を合間で再現実験も行われ、参加された方は終始食い入るように見入っていました。帰り際には「とても面白かった」「ぜひ恒例にしてほしい」などといった感想が寄せられていました。

津山藩医の宇田川玄随は役者の市川団蔵や坂東三津五郎に目鼻立ちが似ていたと記録があり、彼らの浮世絵と玄隨の胸像を並べて比べてもうコナーも設置しました。来場された方々は、「似てる？」に、資料館の所蔵する浮世絵29点を出展しました。

つやまギャラリーに 資料出展



2月22日（日）、津山工業高等

専門学校准教授の廣木一亮先生を講師にお迎えし「実感！体感！舎密開宗－現代化学者が語る宇田川榕菴のすごいところ！」と題してご講演いただきました。

廣木先生には、毎年夏休みに小学生を対象にした再現実験教室の講師をしてもらっています。かねてより一般の方からも、ぜひ参

加してみたいとのお声があり、今回も講演会につながりました。

『舎密開宗』は、宇田川榕菴が刊行した「日本で最初の化学書」として知られていますが、具体的にどんな所がすごいのかを、歴史の視点からお話ししました。

そして、ヨーロッパで最新の化学知識を、わずか10年の時間差で、いわゆる「鎖国」下にあつた日本で紹介している、『舎密開宗』はまさに奇跡の書であると結ばれました。

お話を合間で再現実験も行われ、参加された方は終始食い入るように見入っていました。帰り際には「とても面白かった」「ぜひ恒例にしてほしい」などといった感想が寄せられていました。

津山藩医の宇田川玄随は役者の市川団蔵や坂東三津五郎に目鼻立ちが似ていたと記録があり、彼らの浮世絵と玄隨の胸像を並べて比べてもうコナーも設置しました。来場された方々は、「似てる？」に、資料館の所蔵する浮世絵29点を出展しました。

つやまギャラリーに 資料出展



2月22日（日）、津山工業高等

専門学校准教授の廣木一亮先生を講師にお迎えし「実感！体感！舎密開宗－現代化学者が語る宇田川榕菴のすごいところ！」と題してご講演いただきました。

廣木先生には、毎年夏休みに小学生を対象にした再現実験教室の講師をしてもらっています。かねてより一般の方からも、ぜひ参

加してみたいとのお声があり、今回も講演会につながりました。

『舎密開宗』は、宇田川榕菴が刊行した「日本で最初の化学書」として知られていますが、具体的にどんな所がすごいのかを、歴史の視点からお話ししました。

そして、ヨーロッパで最新の化学知識を、わずか10年の時間差で、いわゆる「鎖国」下にあつた日本で紹介している、『舎密開宗』はまさに奇跡の書であると結ばれました。

お話を合間で再現実験も行われ、参加された方は終始食い入るように見入っていました。帰り際には「とても面白かった」「ぜひ恒例にしてほしい」などといった感想が寄せられていました。

津山藩医の宇田川玄随は役者の市川団蔵や坂東三津五郎に目鼻立ちが似ていたと記録があり、彼らの浮世絵と玄隨の胸像を並べて比べてもうコナーも設置しました。来場された方々は、「似てる？」に、資料館の所蔵する浮世絵29点を出展しました。

つやまギャラリーに 資料出展



2月22日（日）、津山工業高等

専門学校准教授の廣木一亮先生を講師にお迎えし「実感！体感！舎密開宗－現代化学者が語る宇田川榕菴のすごいところ！」と題してご講演いただきました。

廣木先生には、毎年夏休みに小学生を対象にした再現実験教室の講師をしてもらっています。かねてより一般の方からも、ぜひ参

加してみたいとのお声があり、今回も講演会につながりました。

『舎密開宗』は

INFORMATION

平成27年度の催し物(予定)

企画展

4月	企画展「津山藩医久原家の幕末・明治」 講師：熊本県立大学准教授 平岡隆二 先生 18 友の会総会 (休館日：20・27・30日)	3/21～ 久原家の幕末・明治
	24 友の会研修バス旅行 (休館日：7・8・11・18・25日)	
	企画展「明治天皇の侍医頭 岡玄卿」 (休館日：1・8・15・22・29日)	~6/21 明治天皇の侍医頭 岡玄卿
5月	25 親子でスタッフホストの作品づくり 26 ヒンデローペン絵付け体験教室 (休館日：6・13・21・22・27日)	6/27～ 明治天皇の侍医頭 岡玄卿
	9 江戸時代の化学書からの再現実験教室 (休館日：3・10・17・24・31日)	~8/23 9/5～の世界
7月	企画展「解剖図の世界—江戸から現代へ—」 (休館日：7・14・24・25・28日)	~10/4 津山藩の絵師鍬形家と洋学者
8月	企画展「津山藩の絵師鍬形家と洋学者」 (休館日：5・13・14・19・26日)	10/17～ 津山藩の絵師鍬形家と洋学者
9月	友の会史跡見学会 (休館日：2・4・9・16・24・25・30日)	
10月	11 津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム 「金海奇観」をめぐる人々とその思い—鍬形赤子、箕作阮甫、箕作秋坪、宇田川興斎— 宇田川興斎 岩下哲典先生・下山純正先生 (休館日：7・14・21・24・28～31日)	
11月	学芸員による研究報告会 (休館日：1～4・12・13・18・25日)	
12月	2 学芸員による研究報告会 (休館日：1・8・12・15・22・29日)	
1月	3 企画展「津山藩の絵師鍬形家と洋学者」 (休館日：7・14・22・23・28日)	

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会

解剖図の世界—江戸から現代へ—

平成27年度秋季企画展

会期 平成27年9月5日(土)～10月4日(日)



主催：津山市教育委員会 津山洋学資料館
共催：山陽放送
協力：独立行政法人 国立科学博物館
(株) TBSテレビ
川崎医療福祉大学医療福祉デザイン学科

津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム
「金海奇観」をめぐる人々とその思い
— 鍬形赤子、箕作阮甫、箕作秋坪、宇田川興斎 —
基調講演：明海大学教授 岩下哲典先生
対談：明海大学教授 岩下哲典先生
洋学史学会理事 下山純正先生
日時：平成27年12月19日(土)13:30～
会場：津山洋学資料館 GENPOホール

—職員の異動—

【館長】小坂田 裕造 → 大倉 淳一
平成27年4月1日付

ご利用案内

- 開館時間／9:00～17:00
(入館は16:30まで)
- 休館日／月曜日（祝祭日の場合はその翌日）
祝祭日の翌日・年末年始（12月29日～1月3日）
- 入館料／

一般	高校生・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)

※（ ）内は30名以上の団体料金です。
※小学生・中学生は無料です。



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



●交通のご案内

- JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- 中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分